

# さくら



令和5年6月26日(月)

## 祈り



我が家には、祖父母の代から続いている日々のルーチンがあります。朝起きると和室の神棚に行き、お供えしているお水を新しいものにかえ、心を落ち着けて手を合わせます。そして、祈りを捧げます。ただし、祖父母からは何度も教えられました。「人の幸せを祈りなさい」

「いのり」という言葉は「い+のり」で構成されています。またその語源は、「生宣り(いのり)」だという説が有力です。

つまり、「生きる」ということを「宣言」することです。もう少し、くだけた表現をすれば「今日も頑張るぞ」ということを宣言することです。このようにすることで、苦しいことがあっても人は積極的に生きることができるのです。

ノーベル生理学・医学賞を授業したフランス人医師のアレクシア・カレル博士は、次の言葉を残しています。「祈る人たちの間には、義務と責任の感情があり、嫉妬と意地悪さは弱まり他人に対する善意が見られるのが特徴である」

余談になりますが、カレル博士のノーベル賞受賞理由は、血管縫合および血管と臓器の移植に関する研究でした。血管縫合の技術は、フランスのリヨンの裁縫師や刺繍職人の技術を参考にしたものであることは有名です。

また、祈りの研究で有名な宗教学者の棚次正和博士も、祈りについて次のように言っています。

「初詣に行って、一生懸命自分に良いことが起こるようにと祈る人がいるが、これはいかがなものかと。祈りは神様や仏様との取り引きをするようなものではない」

人の幸せのために祈り、大自然への感謝の気持ちを込めて祈る。このような習慣を持つことで、私たちは心豊かな人生を歩むことができるのではないだろうか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

